

南海トラフ地震発生時

AMDAなど

四国支援協議

総社、協定自治体参加

国際医療ボランティアA

MDA（本部・岡山市）は

12日、南海トラフ地震の発

生時に甚大な被害が予想さ

れる四国の支援の在り方を

考える会議を総社市で開い

た。沿岸部に位置し、有事

の支援に関して協定を結ん

でいる徳島県美波町、高知

県黒潮町へ陸路で向かうシ

ミュレーションを11月に行

うことを決めた。

シミュレーションでは総

社市から美波、黒潮両町の活動拠点となる医療機関へ到着するまでの所要時間、交通規制区域を通行するために必要な警察署の標章が

スムーズに交付されるかなどを確認する。AMDAの職員を中心に、関係する医療機関、自治体も協力する予定。笠岡市から海上タクシーで四国へ渡る訓練も検討している。

「ストクラブ」（事務局・岡山市）と災害時の物資輸送などに関する協定を締結した。（岸研一）

会議にはAMDAと災害時の協定を結ぶ総社、丸亀市や徳島、高知県の自治体をはじめ、医療機関の担当者約170人が出席。AMDAグループの菅波茂代表は「一人でも多くの命を救うため、連携を深めよう」と述べた。

これに先立ち、AMDAは両備ホールディングス（岡山市）、愛好者でつくる「牛窓ヨ



第2回AMDA南海トラフ地震対応プログラム調整会議

南海トラフ地震発生時の四国支援の方策

について考える会議